

令和元年度 第2回 国分寺市交通安全対策協議会 議事録	
日時	令和元年7月24日(水) 14時30分～16時00分
場所	国分寺市役所 第一庁舎3階 第三委員会室
出席委員	<p>1号委員 尾崎 周一, 初川 進一郎, 天川 猛, 小林 謙介, 松本 晃 2号委員 矢島 英明, 後藤 正彦 3号委員 牛口 紗知子 4号委員 桂川 泰広, 及川 雄史 5号委員 松浦 弘明, 原 清 (欠席: 1号委員 山口 真 2号委員 坂本 敬太 3号委員 関井 研司)</p> <p>※交通安全対策協議会の委員構成について (国分寺市交通安全対策協議会条例 第4条) (委員) 第4条 前条の委員は, 次の各号に掲げるもののうちから市長が委嘱する。 ただし, 委員が委嘱されたときの要件を欠くに至ったときは, 委員の資格を失うものとする。</p> <p>(1) 識見を有する者 6人以内 (2) 国分寺市立学校長及び私立幼稚園長 3人以内 (3) 国分寺市立学校の児童又は生徒の保護者 2人以内 (4) 警視庁小金井警察署及び東京消防庁国分寺消防署の職員 2人以内 (5) 鉄道事業者の代表者 2人以内</p>
市	中村 隆生(建設環境部長)
事務局	野口 和男(交通対策課長), 高澤 芳友(交通対策担当係長), 内田 徹(自転車対策担当係長), 木村 祐佳(交通対策担当), 高木 弥嗣(自転車対策担当), 山口 京一郎(自転車対策担当)
次第	<p>(1) 自己紹介 (2) 報告事項 ①恋ヶ窪駅周辺自転車駐車場について ②交通事故の発生状況について(2019年上半期) ③未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策について ④市立第二小学校前交差点の交通安全指導等キャンペーン活動の実施について</p>

○開会

1. 自己紹介

※前回欠席の議員から自己紹介
(欠席者の紹介)

2. 報告事項①「恋ヶ窪駅周辺自転車駐車場について」

<事務局>

恋ヶ窪駅周辺自転車駐車場について説明

<会長>委員のみなさんから質問・意見等はあるか。

<委員>

民営化の流れはわかるが、民営化の一番大きな理由が何かがいまいちわからなかった。定期の利用者が多いという現状があって、一時利用になることにより利用者の負担が増えると思うが、どの様にお考えか。

<事務局>

一番大きな理由は、アウトソーシングができないかと従前より検討してきたところにある。恋ヶ窪駅周辺自転車駐車場のみならず、国分寺駅周辺や西国分寺駅周辺の自転車駐車場を含め、市全体で検討した結果、恋ヶ窪駅周辺の自転車駐車場は鉄道事業者より土地を無償でお借りしていた経過や、(利用状況が変わってきている中で)今後の方針を協議させていただいたところ、鉄道事業者のグループでしっかり運営していただける話が整ってきたので、是非ともお願いしたいと考え、我々がこの話を進めてきたことが大きな理由。

定期利用については、我々も定期利用の利用者が多いことは認識している。現在も鉄道事業者と定期利用の枠を設けられないか引き続き協議を行っている。ただし、民営となると一時利用が第一と伺っており、また、運営をお願いしている立場なので、難しい部分がある。委員のご指摘の部分は事務局でも認識しているところなので、今後も鉄道事業者と協議を行っていく。

<委員>

市民の負担がどうなるのかという目線が大事だと思う。アウトソーシングありきではなく、誰のため、何のためのアウトソーシングなのかを考える必要があると思う。その上で、

定期利用者も納得されるのであれば有効だと思うが、いかがか。

〈事務局〉

利用者の方の利便性は一番大事だと考えている。利用状況が変わってきたというのは先ほどご案内したところだが、我々の施設も老朽化してきているなかで、鉄道事業者が運営を行っている駅前の機械式自転車駐車場の利用状況は良い。その様な、新しい・きれいな自転車駐車場に、民間の力をお借りしながら変えていき、利便性の向上を図ることは、一定程度利用者にとっても資する部分はあると考えている。

また、料金についても、あくまで民営で運営をしていくところではあるが、引き続き協議を行っていく次第だ。

〈委員〉

努力しますというところなので、今の話で大丈夫ですとは言えない。市民の皆さんはいいのでしょうか。メリットがあるのであれば、料金を多少値上げするのは妥当だが、定期利用していた人が使えないというケースが出てくる可能性もある。

〈会長〉

定期だった人が入れないのは困る。定期であれば車室があるので必ずとめられるが、（入れないとなると）朝早くいかないととめられないことになる。鉄道事業者に定期の枠を設けてもらえる等の対応が必要だと思う。

〈事務局〉

定期使用者の中では、国分寺高校の生徒が多い。国分寺高校の利用者様は恋ヶ窪を使っている方は東村山方面からくる人が多い。近隣市の小平市の鷹の台駅にも市営の自転車駐車場があり、国分寺高校から恋ヶ窪駅と鷹の台駅の距離はほぼ一緒。他市の自転車駐車場であるが、空きがあることも確認している。中央線沿線であれば数年前に国立駅の北口に民営化した3層建ての自転車駐車場があり、そこも空きがあり、是非ご案内していただけたらという話もいただいている。定期利用者については停められないという状況は回避する必要があるため、恋ヶ窪駅周辺の自転車駐車場は一時利用の可能性が高いが、定期使用についても周辺の他の自転車駐車場をご案内させていただくことによって、利便性が落ちないようにしっかり対応していきたい。

3. 報告事項②「交通事故の発生状況について（2019年上半期）」

〈事務局〉こちらは今年の1月から6月末の半年間の区市町村別の交通事故発生状況となっている。交通事故発生件数だが、ちょうど中段くらいに国分寺市がある。半年間で80

件の事故件数であり、昨年同期比で 32 件の減少となっている。

平成 29 年の 195 件から平成 30 年は 200 件と増加したが、この半年間については昨年より大幅に減少している。事故の当事者別で区市町村ごとに比較した数字は、特徴的なところでは高齢者関与事故で、あくまで途中経過で分母が少ないなかだが、80 件中 34 件で、率で見ると 42.5%となり、49 区市中 3 位となっている。

自転車の関与事故の件数についても 80 件中 14 件で、45%で 49 区市中 14 位と高い率になっている。

<委員>

交通事故について付け加えて説明する。まず、都内の昨日までの交通事故状況。死亡事故が 60 名。前年比－9 名。去年は戦後過去最低であり、年間 143 名。事故の発生件数は 17,401 件で、前年比－839 件となっている。小金井署では、6 月末現在の事故発生件数は 169 件で前年比－45 件。死亡事故は無く、重症 2 名、軽傷 180 名で前年比－51 名であり、小金井署でも減少傾向にある。

国分寺市内は事務局から報告があったので割愛するが、非常に高齢者と自転車の事故率が高い。小金井署管轄の小金井市や国分寺市は自転車の利用が多いことや、自転車は車両なので道路交通法に則り使用しなければならないが、一時停止で停止しないといった問題、また、電動アシスト自転車の普及により高齢者も自転車に乗れるようになり、転倒や衝突の事故も生じている。

事故件数の削減するため、反射材の活用の周知等を行っている。取り締まりにおいても、自転車に重点をおいて行っている。また、小学校において小学校 3 年生を対象に自転車教室を全校で行っている。中学校においてはスクエアドストレートを行い、自転車を安全で有効に活用してもらおうという活動を行っている。

各事業所においても、自転車は車両に属するものなので、自転車の乗り方、交通ルールを守るように訴えかけていただけたらと思う。

<委員>

国分寺消防署は市内を 2 台の救急車で対応している。本署と戸倉出張所に各 1 台。平成 30 年の市内の救急出動の総件数は 5,675 件で、救護人数は 5,056 名。そのうち交通事故に係る搬送は 352 件で、救護人数は 322 名となっており総件数の 6.2%の割合。これは市の 2 台の件数なので、2 台とも出動している場合は他署（小金井、立川、府中、小平の各消防署）の救急隊が 119 番や警察官の要請で出動するので、実質的な数字はこれよりも上になるだろう。

4. 報告事項③「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策について」

<事務局>

報道等でみなさんご存知の通り、今年4月には池袋で高齢者運転の乗用車暴走による親子が亡くなるという交通事故の発生や、5月には滋賀県大津市で発生した園児の交通死亡事故など、子供が犠牲になる事故や、高齢運転者による事故が相次いで発生し、連日報道がされている。このことから、5月21日の「昨今の事故情勢を踏まえた交通安全対策に関する閣僚会議」における総理指示を踏まえ、内閣府において「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策」が決定された。

子供の安全確保や高齢者の安全運転対策、移動支援と、大きく分けて3点について対策方針がまとめられている。

まず1番「未就学児を中心に子供が日常的に集団で移動する経路の安全確保」、こちらについては、先ほどもお話した大津市の保育園児が多数犠牲になった事故をうけてになるうかと思うが、「(1) 緊急安全点検の実施」において、幼稚園・保育園等と市の幼稚園・保育園等担当課、道路管理者、警察と連携し、子供が日常的に集団で移動する経路等の合同点検を本年9月末までに行うこととしている。

現在、当市においても幼稚園・保育園それぞれの所管部署において、各園に対し交通危険箇所について調査をかけているところになる。

その合同点検結果に基づき、「(2) 道路交通安全環境の整備の推進」として、10月中に対策が必要な箇所をとりまとめ、対策については年度内に着手することとしている。

今後各園からの要望に応じて、各関係機関と連携しながら点検と対策を進めていく。

「(4) 小学校の通学路の合同点検」については、すでに毎年度小学校各校と、教育委員会、市道路管理者、警察との合同点検を実施している。こちらも引き続き実施し、点検に基づく必要な対策を実施していく。

続いて裏面の2番「高齢者の安全運転を支える対策のさらなる推進」についてだが、「(2) 運転に不安を感じる高齢者の支援」については、すでに高齢福祉課の事業として運転免許自主返納者のぶんバスの無料パス「ぶんパス」の交付など、自主返納者への支援を行なっている。平成29年度7月の事業開始から本日現在で交付数は942件と聞いている。

交通安全対策の部門においても、さらに市報・ホームページでの広報や、昨年度敬老会にてチラシや反射材の配布を行い広報活動を実施しており、今年度についてもそのような広報活動を実施し、自主返納制度の周知を図っていく。

<会長>委員のみなさんから質問・意見等はあるか。

(特に意見なし)

5. 報告事項④「市立第二小学校前交差点の交通安全指導等キャンペーン活動の実施について」

〈事務局〉 今月 7 月 5 日金曜日の通学・通勤時間帯の午前 7 時半から 8 時半の 1 時間、市立第 2 小学校前交差点三差路にて、小金井警察署の方のご協力を得て、交通安全指導等のキャンペーン活動を実施した。こちらのキャンペーンを実施する経緯については、市民の方からの児童通学の時間帯に交通量が多くとても危険であり、対策を願いたいという要望が実施のきっかけだ。そして、この要望を受け、市で通学・通勤時間帯に現地調査を行った。現地調査をして最初に感じたことは、自転車の通行がとても多いことだ。スライドの写真を見ても、校門前の歩道内だけでなく、反対側にも国分寺高校の生徒さん等の自転車がとまっており、こちらの交差点の自転車の多さが伝わるかと思う。そして自転車に加え、学校の目の前の交差点ということもあり、多くの児童も通り、要望者がおっしゃっていた通り、非常に交通量が多い交差点であった。

そして、当該交差点は、歩車分離信号となっており、スライドの写真のように、歩行者信号が青信号になった際、斜め横断をする自転車が多数見受けられ、自転車の危険な通行により、横断歩道を渡る児童と衝突しそうな場面もみられた。このことから、横断歩道は歩行者優先、自転車の斜め横断禁止等の指導・啓発が必要であると感じ、活動を実施した。活動内容は、2 点あり、1 点目は小金井警察署の方にご協力いただいた交通安全指導。小金井警察署から署員の方を 4 名派遣していただき、朝の通学・通勤時間帯に当該交差点にて、斜め横断をする自転車などのマナー違反者に対し、指導を行った。

2 点目は、交差点のガードレール内に、自転車への注意喚起として、「自転車の斜め横断は危険です」の横断幕をこちらの校門の前と校門の反対側の 2 か所に設置した。横断幕については、キャンペーン活動終了後も引き続き掲示をし、注意喚起を行う。

〈会長〉委員のみなさんから質問・意見等はあるか。

〈委員〉私の方から 3 番目・4 番目を合わせて説明させてもらう。未就学児童の安全確保ということで、先日痛ましい事故が発生し、緊急対策を受け、警察としても、児童が通学する通学路の緊急点検を 9 月末までに終わらせるということで行っている最中である。また、国分寺市の小学校においては、おおむね通学路のなかは通学時間帯に道路規制・交通規制がかかっており、車両は通行できなくなっている。交通規制のかかる道路の通行は交通違反となるため、交通規制の取り締まりを行っている。資料の 2 下の方に、四角い箱がみえると思うが、これは移動オーヴィスといい、自動速度測定器になる。レーダーで測定するものではなく、このオーヴィスを設置しておく、顔と車とナンバーが映り、後で呼び出し取り締まることができるというものを開発。これを通学路に設置して、スピード違反をする車などを取り締まるというような施策になる。また、警察としては通学路安全運

転呼びかけ隊というものを結成して、警察官は毎月1回、通学路に派遣して、警察も一緒にいるという、見せる交通取り締まりを行っている。第2小学校からも要請を受け、訪れ、取り締まり又警告を行った。続きまして高齢者だが、サポカーという障害物又は人を見つけると自動停止するという車が開発されている。また、高齢者を日常的に移動させるための車、要するに無人カーを法律で整備して、今後実用化していく等の取組みを見せている。カラー刷りのHPの資料を見ていただきたい。高齢者交通指導員というものがあり、若い方が高齢者に近づくと高齢者は怖がり近寄らなったり、誰が来たのだと逃げていってしまうこともあり、高齢者の方が高齢者の方に交通指導をしてもらう組織を設置している。これは小金井署にもあり、高齢者の方の誘導活動のほか、高齢者宅を訪問して交通安全教育などを行ったり、交通事故防止キャンペーン、また高齢者交通指導員の研修会、要するにこの人たちも研修を受け、勉強していただくというようなことを行っている。またこれは警察署長から委嘱を受けて行っている高齢者交通指導員証があるが、自分たちは高齢者交通指導員だという意識を持っていただいて高齢者に対する安全をサポートしていただくという取組みである。そのようなことなど様々な対策を行い、今後とも高齢者の交通安全、また未就学児または小学生の交通事故を起こさないということを考えながら取組みを行っていく。御理解を頂けたらと思っている。

〈会長〉他に何か意見あるか。

〈委員〉

第2小学校前のキャンペーン活動はよかった。だが、多くの学校で交通規制がかけられているが、第2小学校は場所がらもあり、なかなか規制がかけられないところもあると思う。キャンペーンは一時的に有効性がみられたが、危険な現状が分かったということで、今後警察や市の方で何か対策は考えているのか。

〈委員〉

対策としては、白バイが朝に順次巡回している。また、国分寺市ではなく小金井市のほうでは、小金井警察署が近くにあるということで、小金井警察署前の交差点には、警察官を配置している。

〈事務局〉

第2小学校の交差点については、まずはこういった取組みを通じて、このようなことはやってはいけないという認識をしていただくことが第一歩だと考え、このようなキャンペーンを行った。引き続き、先ほどご説明させていただいた横断幕を掲示し、交通ルール等の啓発を行っていきたい。また状況を見て、改善されていないような状況が見受けられた場合、対策を講じていきたい。

〈委員〉

夏に PTA 連合会と警察と市と協力して、地域の小学校学区域の中の交通安全危険箇所をチェックしているかと思うが、そこで気になった点があり、国分寺市の土地がら仕方がないと思うが、非常に歩道が狭く、第9小学校の児童の帰宅の際、第1中学校前の道路を通るが、中学生と一緒にになりながら、児童には1列で歩きなさいと話しているが、そうするとかなり長い列となり、信号があるため渡らなくてはならず、その信号を渡るのに何回も何回も信号待ちをしなくてはならない。物理的に難しいかもしれないが、その前を自転車が走りぬけていたり、踏切もあるため、子どもたちの環境的には厳しい環境だということをご理解いただきたいと思う。今後も引き続き子供たちの安全指導は徹底していきたい。

〈会長〉

他に何かあるか。

〈委員〉

第2小学校前の花街道に行くまでの道だが、現在花街道は塗装され、路側帯緑と白の線を明確につけて頂いて、きれいになっている。しかし、朝の通学時間帯、雨が降ったときの特に傘をさしている子供たちが危険であり、中型のバスを走らせているが、重さ2トンくらいの車が入ってきてしまうと子供たちの行き場がなくなってしまうということで、当社でもバスがよけたりしているが、実際そこに無理やりはいつてきてしまい、信号待ちの子供たちがどうするかというかたちになっている。スクールゾーンの時間帯等、このようなところをもう一度チェックしていただいて、事故はないが、私もボランティアで現地を見たときかなりひどい状況だったので、この場所を見ていただきたい。

〈委員〉

スクールゾーンの時間帯だが、これは7時半から8時半の時間帯がかかっており、ただ小学校の方もいろいろ対策を取っていただいて、例えば8時から8時半に来るように呼びかけたり、いろいろ小学校と連絡をしながら、短時間で子供が一気に来るようにしている。ただ第2小学校のあたりは交通規制をかけられない、要するに通行止めにしてしまうと市内が大渋滞になってしまうので、当署としましても今後とも白バイや定期的にそのようなものを行い、事故のない、また違反者がいたら当然取り締まりをするというようなことをやっていく。

〈事務局〉

先ほどの恋ヶ窪駅周辺の自転車駐車場について、民営化に向けた今後の対応だが、議会の

議決等が必要になるため、本日いただいた御意見に対してしっかり相手方と協議し、市民の方には極力影響が少ないようにこちらの方も検討していく。

○閉会

以上